

二つのカミングアウト

今年度の人権学習は、LGBTQについての学習としました。今回は「カミングアウト」に焦点をあて、ゲストティーチャーをお招きして話を伺いました。「カミングアウト」とは、「これまで隠していた自分自身の性的指向（好きになる性）や性自認（心の性）、あるいは秘密にしていた個人的な事実などを、自らの意志で他者に打ち明ける行為」のことをいいます。「ぼく」の思いをふまえ、カミングアウトされたらどうするかなど、生徒たちは自分事として捉えようとしていました。これからの人生では、きっと様々な出会いがあることでしょう。その時、自分がどのような行動をするかが大切です。

みんなの振り返りなどから（一部抜粋）

- 私は話を聞いて、自分の身の回りにもいるかもしれないという気持ちになりました。
- 話を聞いて、まだカミングアウトができていない人もいるから、その人の人生を勝手に決めてはならないということを知りました。
- 初めは性の多様性がどういうものか知らなかったから、これからはそういった人たちに会っても、理解して接したい。
- 今回の授業で、LGBTQ+の人を受け入れ、理解し、周りにとらわれず自分の好きに生きるということが大切だと分かりました。
- 私がこれから生きていくために大切なことは「周りには自分と違う生き方をしている人がおり、それを忘れずに生活をしていく」「自分らしく楽しく生きる」ということです。
- 私の身の回りにも、誰にもカミングアウトができずに苦しんでいる人がいるかもしれないので、そんな人たちが自分らしく生きられる世の中をつくりたいと思いました。
- 相手がおかしいと決めつけるんじゃなくて、自分の中の「当たり前」をそれは正しいことなのか、差別ではないのか？など考えて、いろんなことを受け止められるようにしたい。
- LGBTQ+の人をしっかりと受け入れ理解することが大切だと分かりました。
- LGBTQ+の人々は身近な所にもいるかもしれないということを頭において、最大限の配慮をして生活していきたいです。
- これからLGBTQ+の人に出合ったら、いつも通り接していきたいと思った。
- 今回の話を読んで、私たちに「自分には味方がいることを忘れないでほしい」ということを伝えたいのかなと思いました。
- 言えない人もたくさんいることが分かった。もし将来カミングアウトされることがあったら、いつものテンションで接しようと思った。
- 話を聞いて、いやだった自分でも誰かに話すことで気持ちが楽になったり、自分を好きになったりすると知り、自分も何か悩むことがあったら、誰かに言ってみたいと思った。
- 今回の話を読んで、私たちに「様々な人たちがいて、受け入れ理解し、分かち合うことが大切だ」ということを伝えたいのかなと思いました。
- たくさんのLGBTQ+の人がいることを知り、カミングアウトしていない人もたくさんいると知りました。ありのまま生きていいという言葉が印象に残りました。
- もし身近にLGBTQ+の人がいたとしても、今まで通り接していけばいいと思いました。
- もっとLGBTQ+の人たちが暮らしやすい世の中になればいいと思いました。
- LGBTQ+人を差別せず、尊重して今まで通りに接する。
- もし周りの人がLGBTQ+のことを話してくれたら、受け入れたいと思いました。

